

NO-MA 2020.3 / VOL.25

ボードレス・アートミュージアム
NO-MA ニュースレター

特別報告 「障害者の文化芸術フェスティバル」

展覧会レポート アール・フリユット ― 交差する物語 ―

ABCColumn アール・フリユットを巡るコラム VOL.15

地域インタビュー あの一ひとの近江八幡スタイル
食堂ヤポネシア 代表 松岡 宏行 さん

東京2020大会・日本博を契機とした 障害者の文化芸術フェスティバル —グランドオープニング—

文：三木大輔(主任主事)

【会期】2020年2月7日～9日 【会場】びわ湖大津プリンスホテル

【主催】文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、
2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた
障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク、
障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会

【共催】滋賀県、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた
障がい者の芸術文化活動推進知事連盟

【連携】厚生労働省 【後援】外務省



「アール・ブリュット—日本人と自然—」展



障害者の舞台芸術見本市



体験プログラム
—表現の源泉—

障害者の文化芸術フェスティバルのグランドオープニングが大盛況のうちに終了しました。フェスティバルは、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、文化庁と(独)日本芸術文化振興会が実施する「日本博」の一環として開催され、3日間で約5,250名の方に来場いただきました。

当日は、全国各地の作家により構成された「アール・ブリュット—日本人と自然—」展、国内外で高い評価を受けている瑞宝太鼓(長崎県)や湖南ダンスカンパニー(滋賀県)などのパフォーマーが集結した「障害者の舞台芸術見本市」、国内外の専門家を招いた「アール・ブリュットワールドフォーラム」、障害のある人もない人も一緒に楽しめる「バリアフリー映画祭2020」、訪日外国人が障害者の表現活動を地域の魅力とともに触れる「体験プログラム—表現の源泉—」を実施しました。

また、音声ガイドや文字・手話による情報保障、点字プログラムや誰にでもわかりやすいプログラムの導入、車いすを利用する方でもアクセスしやすい環境作りや自由に選べる座席など、誰もが参加できるバリアフリーの取り組みを実施しました。

本フェスティバルは、全国7つのブロックの巡回が予定されています。東京2020大会の開催を機に、誰もが文化芸術に親しみ、参加できる環境づくりへのチャレンジが進んでいます。



本展を主催する障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会では、今年2月7日から3日間、滋賀県大津市にて、「障害者の文化芸術フェスティバル—グランドオープニング—」を開催。プログラムの一つとして、「アール・ブリュット—日本人と自然—」展を実施した。

33人の作者による約500点の作品を展示したこの展覧会の中から、日本、タイ、中国の作者6人をセレクトし、NO-MAを舞台に再構成しているのが、本展「アール・ブリュット—交差する物語—」だ。

会場に入るとまず、与那覇俊による縦1.5m×横2mの大きな作品が迎えてくれる。画面は色とりどりの幾何学模様や、誰かに向けて発せられた台詞などが構成要素となり、壮大な一つの風景が確立



「アール・ブリュット—交差する物語—」
2020年2月22日(土)～5月17日(日)
【出展者】井口直人、スパラーク・サンサイ、西川智之、濱中徹、与那覇俊、汪化(ワン・ファ)
主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク、障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会
連携：厚生労働省
後援：滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会



1階ギャラリー



2階ギャラリー

されている。その隣には、タイからの出展者、スパラーク・サンサイの絵画がある。屈託のない笑顔が浮かべる女性像が、大胆な構図と強い筆触で描かれ、会場内を華やかにしている。また、天井に展示された井口直人による色鮮やかなセルポートレイトが目飛び込んでくる。まるで井口自身が会場内を覗き見ているかのようで、設置している大きなビーズクッションに寝転がりながら作品を覗いていると、作品世界に入り込むかのような感覚に陥る。

蔵へ移動するとそこには西川智之の陶芸作品がある。西川は、「船やへつさぎのりんご」など、一定のテーマの作品を、確立された表現様式によって繰り返し作り続けている。どの作品にもリズムや息遣いのようなものが感じられ、特有の存在感を醸成させている。2階では、汪化(ワン・ファ)と濱中徹の作品が展示されている。汪は、緻密な線によるアプローチを特徴とする作者だ。作画的な思考から解放されることによりイメージが形作られていくと、観ていると、有機的な何かがかうごめいていくかのような、迷宮に迷い込んだかのような、さまざまな感覚が交錯する。濱中もまた、繊細な線が特徴の作者だが、観て受ける印象は汪によるそれとは異なる。濱中は幾何学的な構成要素を好んで用いながら、ストーリー性のある、温かな印象の画面を作り出している。

本展で紹介する6人の作者は、生まれた環境も年齢も制作に向かう動機も異なる。しかし、湧き上がる表現衝動を抱き、六者六様に得た着想を、ありのままに表す点で深く共鳴している。形作られた作品は、まるで彼ら自身を伝える物語のようだ。作者の眼差しの交差が織りなす空間に心ゆくまで浸っていただきたい。

カルチュラル・デモクラシー：
芸術を楽しむこともボーダレスに
— 芸術とアクセシビリティの関係について —

文：石田瞳（自立生活支援員）

今回から2回にわたり、社会福祉法人グローの研究発表フォーラム（2019/12/8）でプレゼンテーションした内容をベースとしたコラムをお届けします。



高次脳機能障害の人と楽しむ芸術鑑賞会



盲ろうの人と楽しむ芸術鑑賞会

本年度より、社会福祉法人グロー
法人本部企画事業部ケアサービス
推進課※では、誰一人取り残さな
い共生社会づくりに向けて、アク
セシビリティ研究を行っています。
アクセシビリティという言葉は、
一般的には情報へのアクセスのし
やすさという意味で使われていま
すが、ここでは社会参加のしやす
さを指します。芸術をきっかけに、
障害のある人、特に制度のはざま
にある人たちの生活ニーズに着目
し、様々な場面へのアクセシビリ
ティの向上を図ることを研究の目
的としています。

本研究について考えるにあたり、
前置きとして、私が大学院で博物
館学という分野で学んだことを一
部紹介します。現在、イギリスでは
「認知症フレンドリー美術館・博物
館」の普及が進んでいます。美術館
や博物館を安心できる地域の交流
スペースと捉え、認知症の人と家
族のグループセッションを定期的
に開催したり、美術館の職員が認
知症について研修を受けたりする
という取り組みが行われています。
また、美術館や博物館が「認知症フ
レンドリー」になることは、「カル
チュラル・デモクラシー」という視

点からも考察できます。

カルチュラル・デモクラシーと
は、すべての人が文化を作る、また
鑑賞する実質的な選択の自由を持
つ状況を指します。最近では、「文
化の民主化」、つまり美術館や博物
館がすべての人に「偉大な芸術」を
提供することではなく、「文化の民
主性」（カルチュラル・デモクラ
シー）が訴えられるようになって
きています。美術館が認知症の人
や家族と関係を築くことは、症状
の予防や改善、また支援のためだ
けではなく、文化の民主性を追求
することでもあり、芸術文化をよ
り豊かに創造的にすることでもあ
るという概念が認知症フレンド
リー美術館・博物館の背景にはあ
ります。

本題のアクセシビリティ研究で
は、当法人が運営するボーダレス・
アートミュージアムNOMAの
企画展を会場に、高次脳機能障害
のある人、盲ろうの人、発達障害の
人とともに楽しむ芸術鑑賞会を実
施しました。障害当事者や支援団
体と連携を図り、また、滋賀県高次
脳機能障害支援センター、滋賀県
立むれやま荘、滋賀県発達障害者
支援センターなど法人内のつなが

りも活かして、鑑賞会を企画しま
した。

障害のある人のアクセシビリ
ティの拡充とは何を意味するのか
芸術から見えてくる支援のあり方
とは何か。これらの問題について、
後編では研究の成果である実践を
紹介し、考察したいと思います。
（次号に続く）

※NOMAを運営しているグローの
法人本部企画事業部にある課のひとつ



発達障害の人と楽しむ芸術鑑賞会

地域インタビュー
ohmi-hachiman local interview

地域の交流が生まれる“縁側”を目指して
町の魅力に触れてもらうきっかけを作っていく

食堂ヤポネシア
代表 松岡宏行氏

文：赤澤啓四郎（自立生活支援員）

江戸時代の町並みを歩いているよう
な近江八幡旧市街の真ん中に、2019
年5月、古民家を改装した食堂ヤポ
ネシアがオープンした。

「古い町並みのなかに、観光地化されず
日常の生活が息づいている。僕は30代
で世界を歩いたのですが、この町に店を
出したいと感じさせるものがありました」と、
近江八幡の魅力を語る松岡さん。

「ほぼ100%地元の有機野菜を使っ
ていますが、そこにこだわっているわけ
ではありません。食材を通じて、地域と
のつながりができている。生産者の方
が食べに来てくれるし、その野菜を食
べたくて来てくれる人もいます。もち
ろん、NO-MAのスタッフも食べに来てく
れますよ」と、地域とのつながりの大切
さを強調する。

NO-MAとのつながりが深くなった
のは、2019年の秋。「“ボーダレス・エリ

▼「誰もが気軽に食べられる大衆食堂です」と松岡さん



ア近江八幡”をみんなで作るプロジェ
クト」で実施された「ぱったり床几プロ
ジェクト」に協賛してからだ。交流の場
になればと考えて、ぱったり床几の設
置を決めた。

「ちょうど店の前にベンチを置きたい
と思っていたんです。『ちかくのたび』で
は街を歩く人が増えて、音声ガイドを
首から下げた人もたくさん来店してく
れました。いまでも床几は置かれている
のですが、僕もよく座って、コーヒーを
飲みながら近所の人とあいさつしたり
していますよ」

お店そのものを“縁側”のような交流
の場所にしたいと考えている松岡さん
だが、地域の活性化に課題があるとも
感じている。地元の人が気軽に足を運
べる定食屋さんを目指してオープンし
たものの、外食する習慣があまりない
地域性のためか、特に夜は町が暗くて

人通りが少ない。気軽に町歩きがで
きるようになればと考えて、開設したの
が「みんなの休憩室」だ。食堂内の和
室を改修して、食事をしない人でも使
える休憩室として提供している。

「もともとデイサービスで使われてい
た古民家だったのでトイレが広いんで
す。赤ちゃんのおむつ替えや授乳、熱
中症でしんどそうな人がいれば休ん
でもらっています。観光客はもちろんで
すが、地元の人でも休む場所がないか
らと大型商業施設へ行ってしまう。そ
んな人たちに、ぜひ近江八幡の町歩
きを楽しんでほしいですね」

以前は栗東にある障害者の就労施
設で野菜を作り、食堂で働いていた松
岡さん。近江八幡で食堂を始めたのも、
障害者雇用の場を作りたいという思い
があった。食堂という“縁側”作りか
ら始まった町の活性化に、これからも
ますます力を注いでいく。



あのひとの
近江八幡
スタイル



◀ 地域交流の場となっている『ぱったり床几』

築200年近いという町家で江戸情緒が味わえる ▶

NO-MA関連メディア

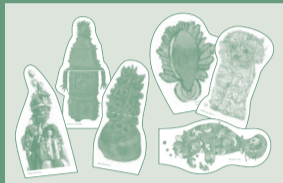
..... <NO-MAグッズのご案内>



NO-MAグッズ

トートバッグ、クリアファイル、一筆箋

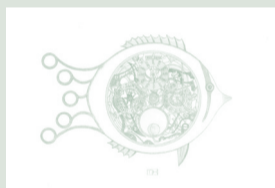
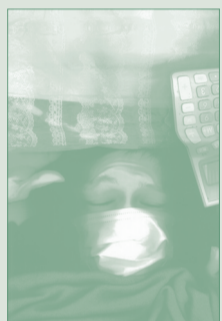
アール・ブリュットの作品画像を用いた一筆箋やトートバッグなど、NO-MAの店頭やホームページからお買い求めいただけます。

トートバッグ 1,000円
クリアファイル 380円
一筆箋 380円

..... <NO-MA企画展グッズのご案内>

2020年5月まで開催中の企画展「アール・ブリュット-交差する物語-」のポストカードを販売しています。

ポストカード



..... <NO-MA 公式フェイスブック&ホームページ>

企画展展示の様子やNO-MAで出展いただいている作家の情報など、NO-MAや障害者の文化芸術に関わる情報を掲載しています。NO-MAのホームページと併せて、ぜひご覧ください。

NO-MA 公式フェイスブック

<https://www.facebook.com/museumnoma/>

NO-MA 公式ホームページ

<http://www.no-ma.jp/>

2020春 NO-MA企画展関連イベント

近江八幡を、滋賀を、展覧会を深く楽しむ5つのイベントを実施します。

ぜひご参加いただき、学び、発見、驚きに満ちた1日を過ごしませんか。

① アートの息吹ツアー in 滋賀

～障害福祉施設の造形活動の現場から～

終戦直後にまでさかのぼることのできる、滋賀県の障害福祉施設での造形活動の歴史。表現の息吹は、今でもさまざまな現場に受け継がれています。展覧会観覧とともに、近江学園(湖南市)と信楽青年寮(甲賀市)を巡るツアーです。

2020年4月20日 11:00~17:30

集合: NO-MA

定員: 20名(要予約)

参加費: 1,000円(観覧料込)

② ギャラリー・トーク

～近江八幡で、濱中徹とともに～

日常に潜む小さな自然をモチーフに繊細なタッチで描く濱中徹(出展者)さんによるトークを実施します。濱中さんの解説付きで作品を鑑賞し、表現の源泉を辿ります。

2020年5月3日 13:00~14:30

会場: NO-MA

定員: 15名(要予約)

参加費: 観覧料のみ

③ NO-MAのちっちゃなお祭り

NO-MAの中庭に屋台が出現し、語らいの場が生まれます。夕暮れのNO-MAで作品鑑賞と、おいしい食事、笑い声に満ちた、ちっちゃなお祭りをお楽しみください。

2020年5月16日 16:00~19:00

会場: NO-MA

参加費: 観覧料のみ(食事代は各自負担)

④ 常設ワークショップ

これど〜こだ!?

出展作品の一部分が切り取られた写真を見て、出展作品のどの部分かを探すワークショップです。楽しみながら作品の理解を深めます。

会期中随時実施(休館日を除く)

会場: NO-MA

参加費: 観覧料のみ

⑤ ぶらりお散歩、近江八幡物語

近江八幡の歴史情緒豊かな建物や文化を巡る“ぶらりお散歩”の時間。NO-MAや特徴ある民家などを見学します。

日時: 日程調整中

集合: NO-MA

定員: 15名(要予約)

参加費: 観覧料のみ

※新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの開催について中止・延期などの変更が生じる可能性があります。

※日程調整中のイベントの日時や、中止・延期等の変更については、NO-MAホームページにて進捗状況を公開していきますので、QRコードのリンク先をご確認ください。



【編集後記】

「波風を立てる」という言葉は、ことを荒立てるという意味で使われる。私は、ずっと波風を立てない生き方を良しとする方向で教育を受けてきた。人にも、特に子どもたちにもそのように伝え続けてきた。

けれど、風が吹いて波が立つことで景色が変わることがある。そのことを学んだこの一年だった。アール・ブリュットの存在を世の中に伝え、障害のある人たちのパフォーマンスを舞台に乗せた先輩方は、明らかに世に波風を立ててきた。私は今、その波紋の中で仕事をしている。波風を立てることで、世の中が変わるという経験をたくさんさせていただいた。「波風を立てる」を英語にするなら、make wavesだろうか? これは、ニュアンスが前向きでプラスのパワーを感じるような気がする。

私も、これからは波風を立てる方向で生きていきたい……そんなことを考えていたからだろうか、「水の中に自ら飛び込む」という夢を見た。飛び込んで、大きなしぶきがあがった夢だった。なぜか近くにいたおじさんが、「飛び込んでくれてありがとう」と言って涙を流して泣いていた。飛び込みの美しさが問題じゃない! 自分にできる飛び込み方で、まずは飛び込んで波風を立てよう! ちょっとロックンロールな春の幕開けだぜ。



ボーダレス・アートミュージアム NO-MA



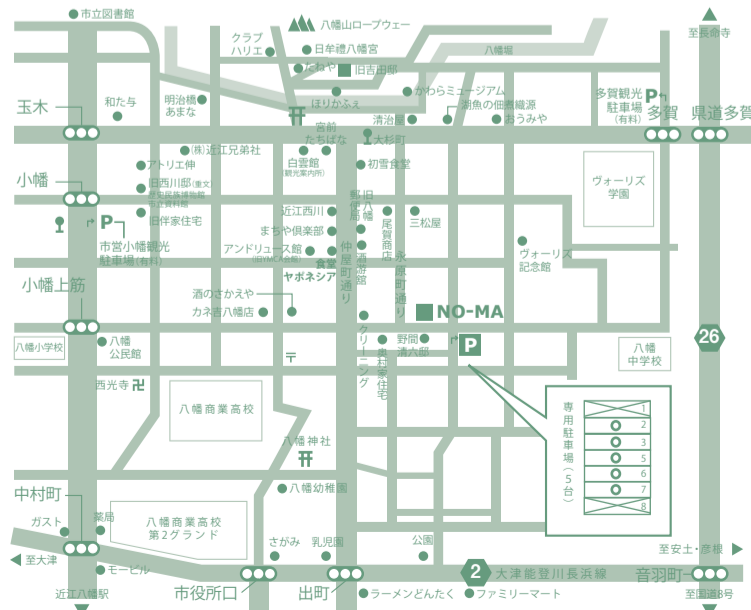
滋賀県近江八幡市永原町上16

TEL/FAX 0748-36-5018

休館日: 月曜日

(月曜日が祝祭日の場合は翌日休館)

E-mail no-ma@lake.ocn.ne.jp

<http://www.no-ma.jp>

バス JR近江八幡駅から近江鉄道バス(長命寺行き)大杉町バス停下車 徒歩10分

車 名神高速道路・竜王ICより「近江八幡・国道8号」方面へ。国道8号「西横関」右折、「東川町」左折。県道2号「小船木町」右折、「出町」左折。(計30分)